

1 白河市の概要

2 景観形成ガイドラインの目的

白河市景観計画推進区域における 景観形成ガイドライン

1 白河市の概要

1-1…城下町白河の成り立ち

わたしたちのふるさと白河は、那須連峰を源とする阿武隈川とその支流である谷津田川に挟まれた東西に細長い段丘上に築かれ、周辺は緑の丘陵地に囲まれています。

古くから奥州の玄関口として知られ、江戸時代の初期から城下町として栄えてきました。

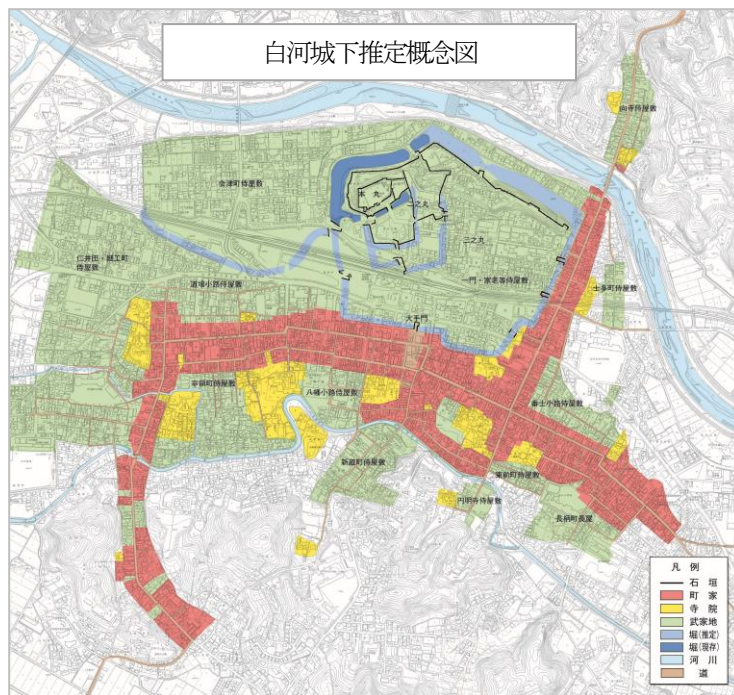
寛永4年(1627)、白河藩が成立します。初代藩主となる丹羽長重により城郭建設と現在に残る町割りが行われ、その歴史的な都市構造が現代においても継承されています。

1-2…白河市の街並みの特徴

城下の主要な通りは、天神山を機軸として東西線上にカギ型状の街路を挟みながら築かれています。街路や街並みの背景には、遠景に那須連峰、西に風神山、東に雷神山などの丘陵地が配置され、山当てと呼ばれる景観作法を用いながら都市計画がなされてきました。

長い歴史の中で培われてきた歴史的・文化的景観資源が数多く、これらを代々守り続けてきた本市では、小峰城跡を中心とした旧奥州街道沿いに寺社仏閣や歴史的建造物、蔵などによる城下町らしい風情ある街並みが残ります。

旧城下では、江戸時代から続く酒や醤油、味噌の醸造も盛んに行われ、提灯まつりやだるま市などの伝統祭礼も開かれており、本市の賑わいの拠点となっています。



城下町らしい街並みを演出する風情ある建造物群

2 景観形成ガイドラインの目的

2-1…景観計画推進区域について

時代の流れに伴う取り壊しなどにより伝統的な建造物は少なくなっていますが、明治から大正、昭和とそれぞれの時代の特徴を持つ建造物などが旧城下町を彩っています。

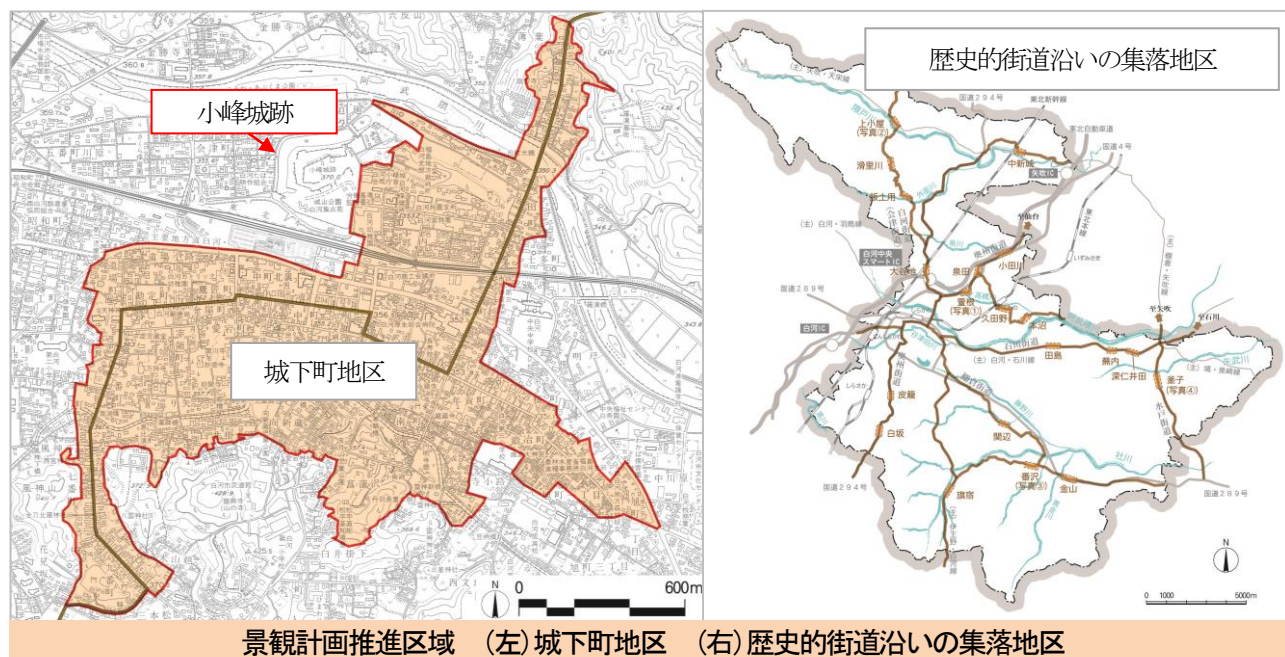
しかしながら、こうした歴史的建造物は少しずつ減少し、城下町のおもかげが徐々に失われており、風情ある街並みを維持し高めていくために、一定の区域を景観計画推進区域として定めて足元の資源を活かした景観まちづくりを推進しています。

2-2…景観形成ガイドラインの目的と位置付け

本市では、平成23年3月に景観形成の基本的な方向性を示す景観計画を策定しました。

本書は、平成24年3月に景観計画の方針等に基づき、地域の歴史文化を活かした個性あるまちづくりを進めていくため、街並み形成を図るうえで配慮すべき項目について指針としてまとめたものです。今般、国道294号バイパス整備事業の範囲となるEゾーンなどを中心に、一部内容の見直しを行いました。

多くの皆さんにご覧いただき、景観まちづくりの取り組みの参考書となれば幸いです。



用語の説明

- 景観計画・・・景観法に基づき、景観行政団体が定める、良好な景観の形成に関する計画。
- 景観計画推進区域・・・白河市景観計画では、白河らしい街並みを活かした景観まちづくりを行うにあたり、一定の区域を景観計画推進区域として定めています。
- 景観形成ガイドライン・・・白河市景観計画の方針等に基づき、地域の歴史文化を活かしたまちづくりのために策定する景観設計指針。ガイドラインの策定にあたっては、景観計画推進区域内のそれぞれの街の特性ごとに区域区分（ゾーン区分）を行い、この区分ごとに景観形成の考え方や、街並みを構成する建築物等において推奨する基準を設けています。

○本書とあわせて、別冊の「白河市景観計画」または「白河市景観計画概要版」をご覧ください。